

復讐 奇談

安積沼

五

3146
五



3146
5

小幡小平次
死靈物語

復讐言安積沼

卷之五



東都

山東庵京傳著
并田泥牛校

第九條

高雀品窟賊醫屠入肉事
并墮活地獄美女嘆薄命事

あやうど羽州男鹿山に時田翻沖と云。外料の醫者あり。世男
鹿ふと云ハ。羽州の東北よりあり。海中にさかると地とて。をくるとは。山
のこころ。絶景の勝地あり。山の中に赤神山と云ふあり。山上に赤
五丸のうら。一丸ハ漢武帝と云。一坐ハ蘇武と祭る。余の三丸ハ我
邦の神あり。世海のむく。匈奴の地とて。蘇武が牧羊ハ男鹿山
ありと云。傳ふは。山のうら。一の奇境と云。ハ。高雀品窟ありと云。扱

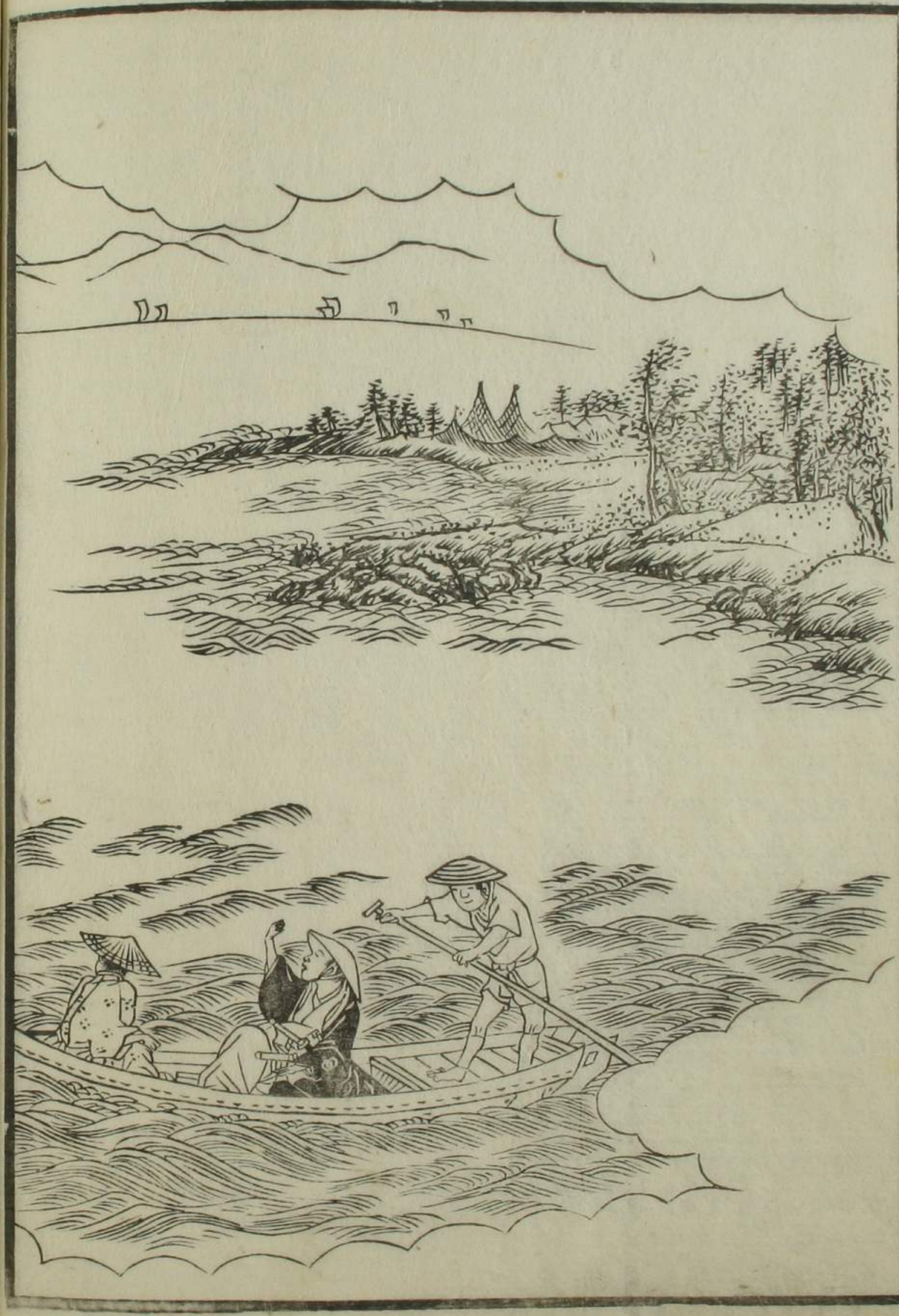
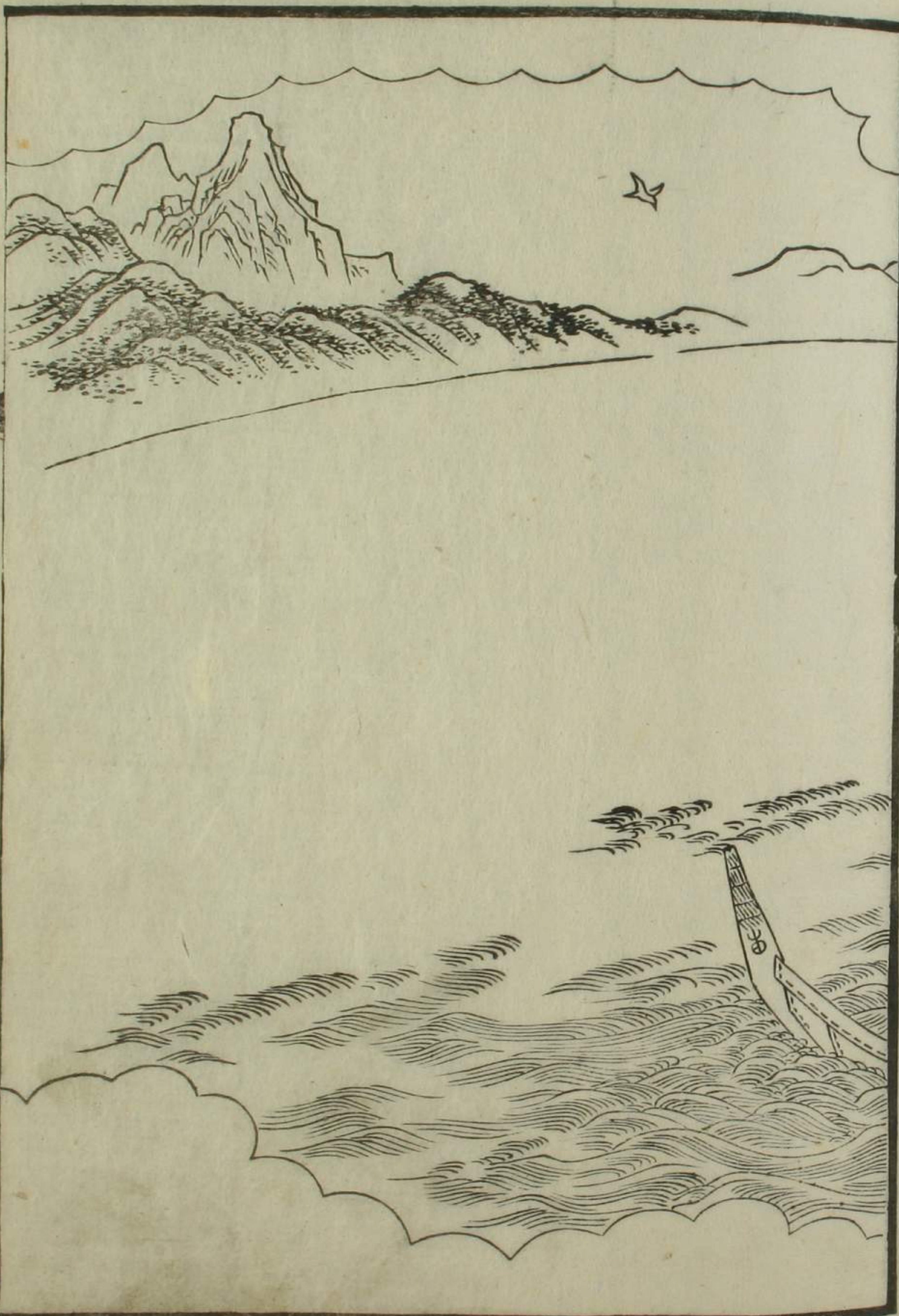
安積沼

卷之五

一

彼翻沖と云者。曾一本の秘方と得て。医道大にせある。世地秘より
 されを通い。他郷より往來の便あり。所々に別家と買入
 せ。廣療治と施せ。い。奇疾異瘡と。その症より。世
 彼。小毛。薬。皆價。靈薬。その症より。世
 あり。希。先。代。の。多。少。と。ま。わ。る。こ。と。あ。り。遠。近。の。富。家。危。病。と
 け。時。必。彼。と。む。り。て。茶。瓜。を。以。て。其。く。驗。あ。る。皆。人。救。世。の。名。医。あ。り
 と。名。教。と。故。に。附。儀。の。礼。物。數。百。金。と。得。て。家。大。に。富。ぬ。茶。と。あ。り
 あり。秘。室。の。内。に。あ。り。て。親。手。これ。と。製。表。と。す。奇。方。と。知。る。人。り。
 原。男。鹿。山。ハ。世。界。と。離。る。地。と。人。の。信。ぎ。ら。不。る。れ。と。翻。沖。富。に
 あり。て。地。と。好。む。昔。高。雀。の。岩。窟。に。い。ひ。岩。石。と。ま。り。む。り。て。大
 家。と。造。り。後。少。教。丈。の。岩。壁。あ。り。前。少。二。重。の。高。塀。あ。り。操。者

多。め。て。造。美。齋。あり。婢。女。奴。僕。最。多。う。り。又。山。井。波。の。こ
 ま。ぐ。に。姿。と。う。諸。國。と。ま。り。て。仇。人。と。う。ぐ。江。戸。と。出。て。より。已。に。三。年
 ぶ。ぬ。ま。ど。も。い。ま。宿。志。と。遂。ぎ。ら。瓜。移。ひ。權。又。尚。必。に。足。と。ま。む。
 け。お。し。も。翻。沖。あ。り。に。書。齋。と。造。り。画。壁。好。む。い。も。鄙。お。あ。る
 へ。ま。弦。所。あ。り。び。り。と。ま。り。て。偶。波。門。が。り。と。弦。と。わ。く。と。ま。り。
 家。僕。と。つ。り。て。家。小。む。ん。と。波。門。踏。費。小。尺。と。り。時。れ。が。幸。の
 こ。と。收。び。速。に。う。け。ひ。き。て。翻。沖。が。家。僕。と。ま。り。に。秘。小。衆。の。男。鹿。山
 に。赴。く。は。日。海。上。い。と。ま。り。て。風。波。の。ま。り。ひ。あ。り。秘。や。う。す。と。む。時
 驚。飛。來。う。て。空。より。秘。小。衆。に。か。き。て。波。門。これ。と。り。小。肉。つ。ま。の。發
 の。毛。を。れ。が。あ。や。し。み。り。に。翻。沖。が。家。僕。う。ら。笑。ひ。世。に。近。淡。小。溺。死。の
 者。あ。り。と。ま。り。が。彼。ま。り。の。人。肉。と。真。の。肉。と。ま。り。と。ま。り。て。ま。り。來。し。も

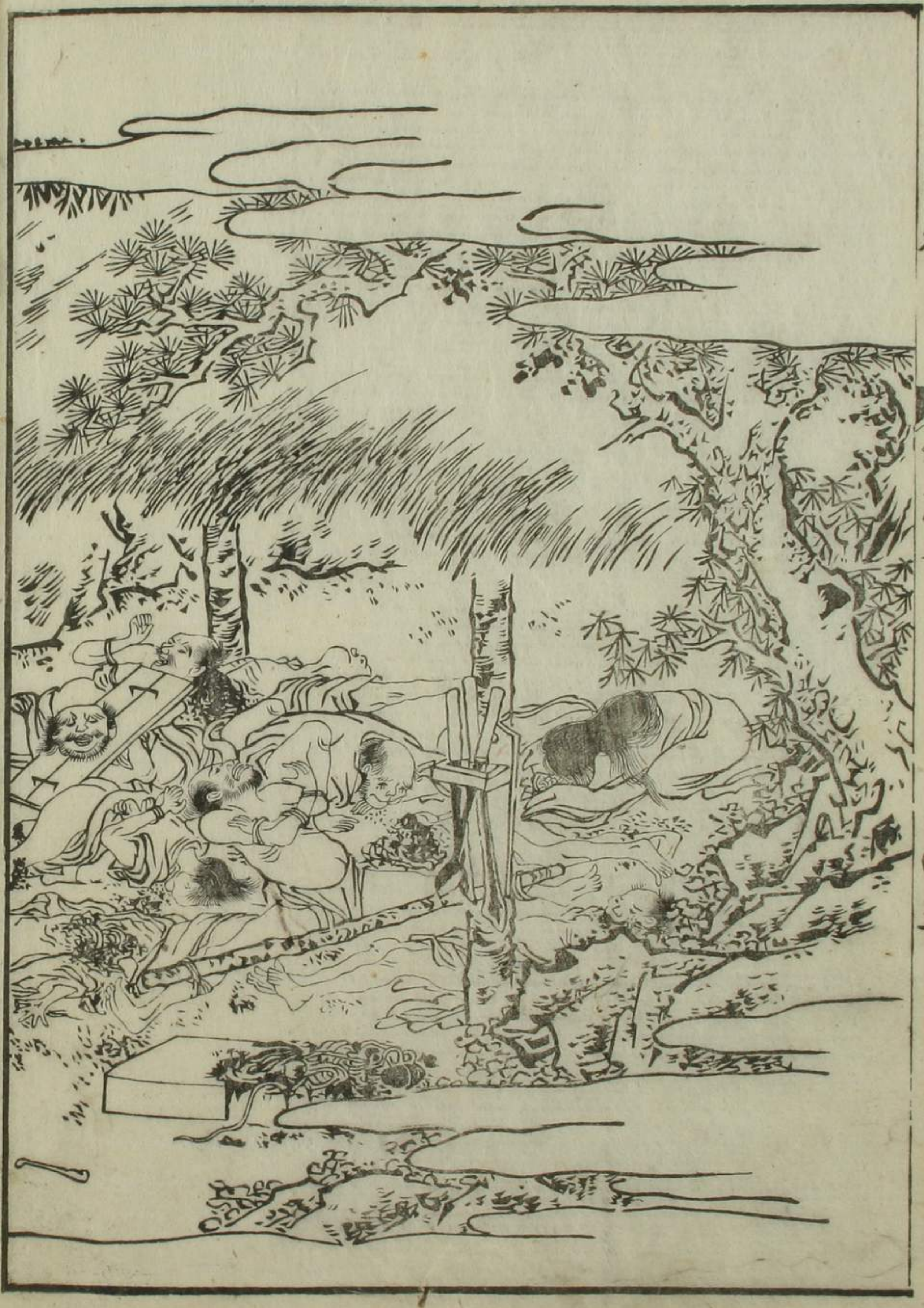


のちんと流るつ。つひ小男鹿山に下る。兩人岸に上る。翻沖が家僕波の
 とらびれて家小飯り。客を痛に通へおきてあまにいと告ね。
 波門の家とつる。いと美麗なる大家のれが。大匠の大都舎
 母もあること瓜まむと。ゆかに響きさるむる限あり。良ありて陰の
 紙門左右小むり。翻沖の中に出て波のつ小まも。波の暗に彼を窺
 ひるるに茶綾子の袷まね小黒き及服と若も。年八寸に色黒く
 と肥て身材まむれてさる。不とありあまの婢女美酒嘉肴とさ
 げ出ていとありさ食意あり。れら波門権は家小さまりて。あまに
 好の縁とさ終る。己に別と告てさるる。翻沖波門が夜藝
 に通へら瓜まむ。あひてさむれむもあまで又数日逗留。一内已
 再八月十五日に下る。波の今宵むらく眠らん。瓜まむて一室

といで稼のろりついでる。明月皎くかた。鬼鬼蟾精時と得
 て。白目のごとくありれば。又庭にありとら。まかま瓜まむて清光と電一
 に。遠奥深所に小門あり。幸扉むけてありれば。さらん門外小ふあ不救
 十歩行てつる。いとさるて岩石とさむりひねる。あまらうらに曲折てあ
 き一條の坂あり。凡二町むらり上り平地に下りてさる。小森漫る大海眼下
 小あり。一面の碧鏡と鋪るごとく。海水天小つる。あまらて雲霞を。浪
 花月れかたれて巖とあり。遠山遙峯。平砂曲岸。只一目見れば
 して。手もさるべうど思ひ。月ハあまらさるひの。さるよる。松島
 好景。延虫の昔屋と我宿う。そよみ。象瀉の絶境。あま。専劣へ
 ろらむと。波門むらむら。権站むら。知小忽腥風。ささ吹て鼻と襲
 人の號哭声蚊のあやう。波門あや。むら。不数十歩。あまて

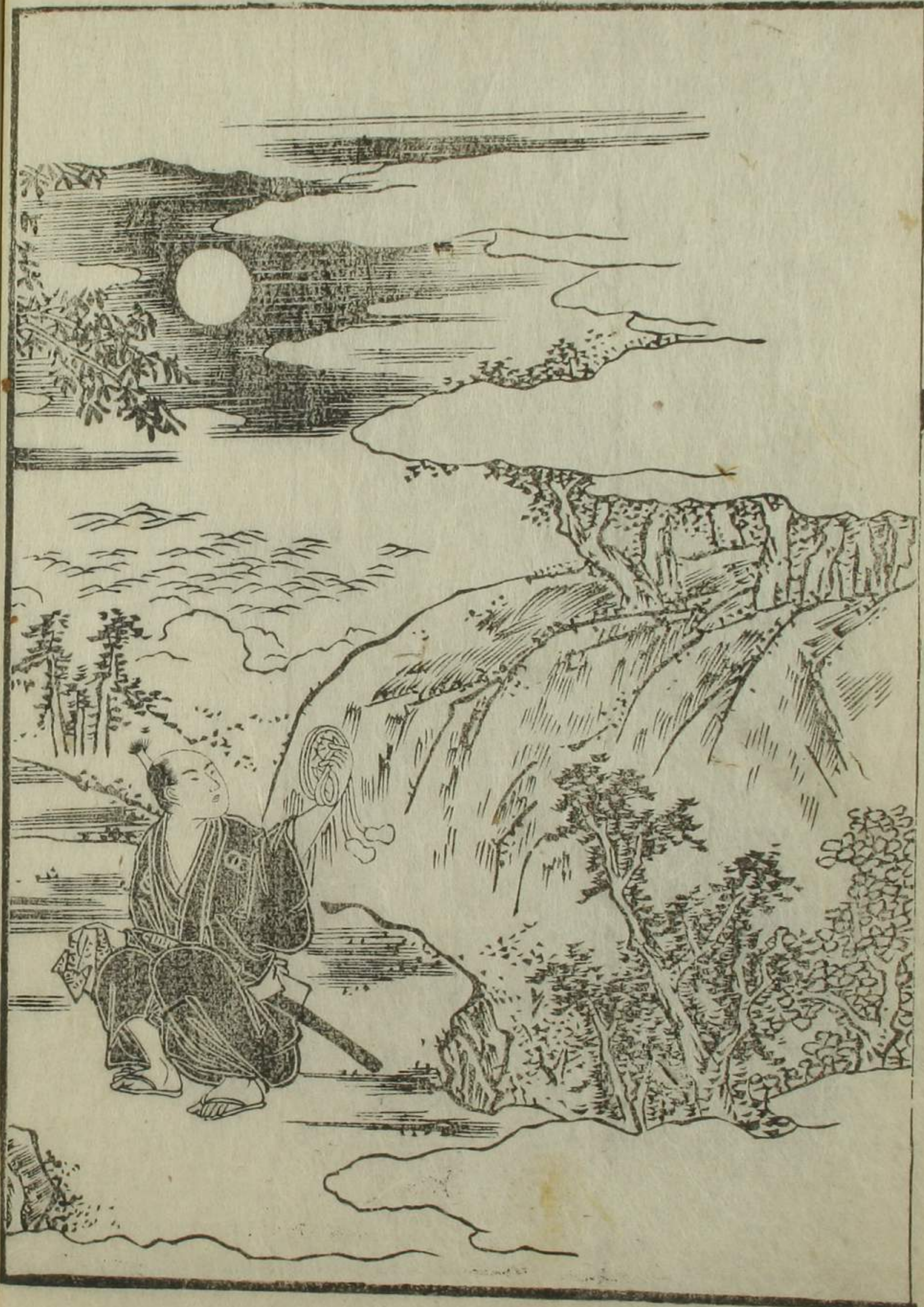
くるん。樹木の多きりうららけ小家あり。彼叫声、世裏にあれば益わ
 やーみ。窓よりうららけ月之光りやと。窓覗ひえれば。まぐて篋子
 どもあり。土間に十余箇の人枷。挫とけられてあつて居る。獄舎かとう
 といひてくる。おちりてんま。男女小児うららけ。皆身体全うする人あり。或
 は鼻とそぐれ目とくられ。舌と抜き。或は手脚の指とくられ。七死八活。只
 苦痛れえむとて號哭声。いとく哀う。又かろらけハ白骨と後上。赤肉
 と斬散を婦人の肚と割るもあり。小兒の皮と剥るもあり。人の腿五七
 割。以梁に吊。五臟六腑と引出して一盤の上に載せぬ。鮮血沙川の如
 れ流。腥氣鼻とおちりてとく。大膽の波門もい先系とてお
 びんぼ。髪もけ毛もまぐりぐり。淫まぬ。扱あふ。うららけ。い知。修羅
 道まぐり。我活まぐり地獄小墮。うららけ。まぐり。呆らる。まぐりとまぐら。汝

第何者。そ何のゆり。若とらうららけ。と回。一人若て云。我輩ハ皆遠
 國より活捉れ来り者あり。爰の賊医。翻沖がゆり買それか。苦多
 茶の料とる。彼賊医。我まぐりとらけ。かじきさ。みづう。腰らの家僕とい
 きまらう。うららけ。のぞきて。我まぐり活肉と屠取。その余乃人ハ家内若
 者もこれと知ることか。一故にか。世界とるれ。比とそら。みて。任
 とらう。彼常て。蠻人より一本の秘方と授り。凡人の身上の病に。都人の身
 上のお瓜。用て。奇異の療治とる。耳目四體の症のごとけ。活人の耳目
 四體と割取て。薬に合せて。五臟六腑の中。に生る癰疽のごとけ。活人の五
 臟六腑と割取て。薬に合せて。或ハ小兒の胸と割て。生膽と取。孕女の肚
 と割て。胎子ととる。のぞき。惡鬼羅刹の所。みとら。も。是。は。あ。る。べ。く。は。
 中。多。に。諸。國。小。販。人の。考。瓜。つ。り。或。ハ。人。と。活。捉。拐。劫。手。或。ハ。人。買。の。手。可



索てかく集めたる茶の料とも最全身益疾の者みわくざれば用むとあり。
おん身もかどり。彼がみに茶の料とありありん急て脱る計とに
みくま波門とれとて益發驚き。前日秘中に鴉のおきせり人肉もは
雨うらうらきゆるあらん宋代の女賊母夜叉孫二娘が人肉と屠しう
も尚遙にまきゆる。隠悪あり。とらふかれり言をまきてぞおしる。この
殺人の擒のうらに。二八をうりれ手弱女雪狐あざむく白綾の袷ぎぬを
着てよりあらん人の息女もおびきまみどりの髪とありれと。うらふ
小伏口裏に念仏とてあて居らる。ごころに衣又んえりれば波門にさあに
て見られ。臉ハ嬌花不似て。眉ハ嫩柳のごとく。涙眼み白玉とて。憂を
懐き眼と積の光景。天人の五衰眼前にあるが如し。は美女唐錦の袍
に包らるお尻抱し。は時包しけてうらうら一面の鏡まらびせられ波門

これと取てえるに背面に月谷の紋と松竹亀鶴と鑄付され。大に驚
き。は鏡は是三年のあれより穂積丹下と云人に与らるあり。これと持
たらおん身ハ若丹下殿の息女也曼児めてらわれうと云。美女も驚き波門
が聲をうらうらえりて。あはれまみ身ハ安西喜次郎殿とていひて兩人
夢にさるうらうら。うらうら。波ついでに事と細小波が。が
うらうら。うらうらと投てんすた知ふて。おくれ擒来。縁故とてうら
うらあり。うらうら。茶の年父人郎也遇は境とてうらうらて家又飯
つとまらうら。うらうら。妾只郎が宿志と遂まら目然まら。は鏡と所の
付とあひゆるて。あはれとて。あはれとて。已に三年とわれども。あはれとて。あはれとて。
所の音信とあはれ。あはれとて。あはれとて。あはれとて。あはれとて。あはれとて。あはれとて。
一日長谷の観音に詣で。所恙なく本意とて。あはれとて。あはれとて。あはれとて。あはれとて。あはれとて。



げふうくや。自己ハ一室のうらに去て行囊包裏をとり
とぎめてあり。扱逃出んとするに。後少の数十丈の岩壁あり。前
少二重の高きあり。逃歩べきやうなり。時に前年了然禪尼
のちりされハ八字の句。

得布而擒 得布而脱

とふるどあひや。今宵の危急布と以て脱よめど人きり
と心中にうらぐき。幸衣服の料とを索おき一幅の白布。包のう
ちある皮いそぎあて水にゆき。濡布とすて堀よりちりけ。
波門うらとと脊におひて布とつゝひ。ひらびて二重の塙を越。網
と漏らる奥籠と離るる急の思ひとす。一息吻とつきりる。追手
のからんことぬおとし。一脚もなすくと又かたこと脊におひ。月影のぬよよ

も逃ふらと駈るこつ。足底空に走り。漸く二十余町逃のびてむら
をらん。いそ入江と渡るべき伎あり。芦葦茫々と生れ。只一條の徑路
をんや。かたもはし。後よりあやの人の声。汝も走ることかたしとよが
まつ。もあま火把と揮照して。飛ぶこころに追まら。是乃翻冲が家僕
等あり。波門をこころ嘆息。かたこと枝で葦岸にあら。あやとわじ暗
に頭をえぐじて。後の方とぬき。うらに火把漸く。いらる。後より救支
の返あり。前より森く。大江あり。更に逃る。うらもあや。わじく危
きに端。あつて奥に斬死せんとあひられども。あや大望と肩こころ足
弱とす。もひこれ。脱る。けり。あひなり。葦のうらとわけ。あやうて
船やあつ。うら。あや。波門あつ。まげ。爛泥のうらに撲地たる。
かたこと驚きて。扶起せ。波の渾泥。あやうて。あま。あや。あま。

おとえらん。船とつまげの續き、水が急ぐ葦と押一分て、果して岸
 舟一艘の獵船あり。天のさきけと候び、いそぐくつりて、杖て船の
 飛来槽とつりて、漕去むとせり。船の只めぐるおとせ、少くも岸とをか
 きど、こはもいふし、うくえきと、狼狽て綱とさど。波の氣と焦燥、刀と
 抜て綱とさうとて、又槽とつりて、あつて、只むと押れ、一町をうり、沖の方を
 押、あね、波門、原房州、小育、海士の子多、が、船漕業とてあひて、あ
 心におび、あねが、腕も、あね、すて、漕て、十余町漕去り、頭とつりて、さうり
 後の岸上とのど、あ、数十箇の火把、葦のうらに、乱入紛く、て、螢の飛
 ぶ、ご、く、く、さう。波の腕のつく、け、か、か、力と、ま、ま、ま、て、漕わ、ど、ん、少、刻、も
 つ、ご、と、て、船、は、江、ん、小、つ、り、る、が、忽、槽、わ、り、ま、さ、し、て、れ、て、波、門、船、中、に、あ、れ
 船、底、破、ま、て、水、滾、く、と、漏、つ、ぬ。これ、は、船、の、原、破、抜、ま、る、捨、小、船、さ、る、が、知、り

どして、系、槽、も、又、朽、ら、る、中、多、あり。これ、は、十、分、の、危、急、さ、り、ん、折、し、も
 あり、一村の雲、や、ひ。月色、朦、朧、く、て、暗、夜、と、あり。一、陳、の、暴、風、と、て
 吹、ま、る、不、ど、こ、と、あ、れ。高、浪、白、馬、の、走、る、が、ご、ご、く。孤、舟、紫、燕、の、さ、る、さ、る
 似、て、或、は、沈、む、或、は、浮、く。水、の、底、よ、り、涌、り、湧、り、清、い、う、ら、う、打、く。忽、船、漕
 ま、く、う、ら、ふ、お、ら、つ、り、て、後、之、の、汁、の、ご、ご、に、え、ん、が、れ、が、つ、ら、と、は、只、眩、轉、て、活
 と、う、ら、ら、も、さ、り。舟、梁、に、う、つ、ま、て、今、の、と、ま、る、と、ま、ら、の、と、あり。波、の、嘆、て、南
 无、大、悲、觀、音、薩、埵、我、軍、と、棄、む、は、ど、ら、一、命、と、救、は、せ、あ、く、と、念、ト、普、門、品
 と、声、さ、や、ら、れ、と、あ、つ、て、眼、と、ら、し、て、居、る、知、小、風、ま、く、さ、う、と、あ、り、ま、て、船
 と、ゆ、ら、あ、げ、あ、り、せ、ら、り。巖、に、撲、地、う、ら、つ、つ、て、つ、ひ、小、微、塵、に、お、碎、き、看、る
 波、上、に、散、乱、と。波、門、う、く、と、つ、る、う、り、も、さ、と、お、ど、う、せ、て、岳、の、上、に、飛、上、り、つ、ら
 ら、こ、が、手、と、つ、り、て、引、あ、げ、ら、る、が、や、が、て、巨、浪、巖、に、う、ら、あ、げ、て、二、人、と、ま、い、て



初きかしくぬ波門曾水練に達しこれ水とらうては深きいでかろこと
 と抱りうさび品によぶのなり彼とるるに船中の銀若みん神悩乱し
 うろへ今又水中に没しこれ渾身氷のごとく冷てあへも緯まれ
 るが。あ不續るあさるんのうちぞ痛りき波門は只呆として一度に氣力
 よろりるがまひに志を勵せり品の上りあつてん行せんも使あり幸
 風もやうごらん對岸もむをちりけむとるく水とこえゆれ陸の上
 てこそみ抱もせあしんをささる。衣服とぬぎて赤裸しあり。色裏
 水中に多ひとる鏡とらうて行囊みおし衣服のうらにつ
 みて帯とびて両刀とゆれ脊上にちりつらつつけ。かろこと
 たりにこそささるさみ。水中に飛入て片みとびて水ぬきり。浮つ沈
 つからして對岸に游つさ。かろことかぬあげて後づらんかろめ

按腰して氷と吐せむ。且耳に口をてよびくせど更にそのう
 あるりか。波門死骸まむい。せんあひるれをかく薄命あるふ
 の遠境に擧束て。うろごもせんぐり遇一度火坑とのれおてふ
 うび水底に命とおも。我病志ととげて後男丹下殿み遇て
 何とらん。便ちれた老の才乃果やと。天に號地に哭て。まろ。氣
 なるりりり。かろ長の時こそ海中の較人も涙あじて涙をそくく。月
 もあてふぬる光景あり

第十條

脱虎穴避龍潭波門報仇事
 并榎本其角復花之夕事

波門や涙とやうま急めて忘らる。前年不然禅尼零陵甞
 醒番とらる。後日必もらる。時あんとらる。正是世時あり。

身とてあさびや今尚くあわれむらく人家あまるといふこと
 名香の奇おとんと頭とくして後とて種々遠く林のうちに
 堂あり。いそがしく儒衣公等一両刀かび死骸と脊にかひつ。か
 に走つてきてそれの堂のうら暗くしておのあやるとかゞど。死骸と堂
 上にかたきと名火赤袋をかき出たれば火口めれて火のうらぶるもあ
 ど公おに番煙れ火やあると手してさざるに番煙あれど原は堂人家
 みをくちく人かたけを焼中つづつに冷灰のとなり。せんさあ外
 出てそれの門初形あま乱くる尾花風あつれて人と拓く。彼門猛
 然こておひつき。尾花とあまの折うて一束と。あさび火燧をうて
 打くれば火忽尾花あうつて。燧と燃あがるに心とれく。松の小枝
 とおくべて死骸とあま。且番煙れ火とつづつ。かの室あまあま。

死骸の形あさつたれば奇が妙が獲都る香氣鼻中に入ると
 心とく。かろくこ忽眼とゆと。只夢のさめるとさつてに甦醒あ
 かしより。え氣年日にくるこ。彼門大はよろこび窟洲の返魂
 樹祖洲の不死草も遙にまける奇物ありと。名香の靈驗
 且禪尼の道徳と感とり。かそあ人儒衣とあがり。堂の椽尻
 かけて権心氣のつづれとやまらり。彼の偶あうきて額とめど
 香通の二まあり。かてて云我の房列にまけて深く那古寺の観音
 と信ぞ。あまの文和おまけて長谷の観音お信ととほね。け堂のみ
 不つけも観音おあり。念むる知ま他と異おまをといふも。諸仏原
 一体あり。さうさびんあうに來て甦醒さると。名香の奇おとんと
 あがり。且井の椽後によるあま。と。兩人信心やます。公おあ

五
五
五



卷之五
五

汝めけぐりりらん為る万に漂泊し。心百折千磨に勞
 と。已に附つりてるのあひの。盲亀の浮木と得え。優曇華れひ
 らくとるるが如し。只速に猪頭でしつひつ。刀の尻をさらぶふえ
。拳とあせりて力足と踏られ。雲平呵とあせみあひあらる
ら蔭田翻沖みめとよせ。藥の料とももんらち中國小卦さふ
とびぬる途中あて。手下の者胡擯五房。鯁八。鷄二房。鶻二房。四
人みあひ。このごろ翻沖が家不逗留せる若人諸藝不通トる者
とからぬ字あやこまやらいふ。汝がりやらいにく。何ら。いふ。汝
ら速に殺して後の秘をとぶんと。飯さらしとさぐ。処ふ。さらぶて日
とくじ。夜中船の便さけき。び堂中に入海風のさむさいいし戸
帳のらみ卧て。一夜といらんとせられ。汝自ら來て我れらをとる

ぞん。汝が運命のつつらぬり。我旅路のつれぬ熟睡。四人
をとりと失ひしとを迷れられ。それの女も我手より翻沖に賣
れ。いとろろわいひしに奔走あんや。あのに七年あ我房別の觀
音堂とて汝が雪中に死んとや。汝救ひ。今又世觀音堂あて汝を
殺す。このごろあがあらるの汝がどいでぐ。友擊みときを親
念せ。といひの椽の板と踏まして堂下に飛り。刀と拔て斬りけ
ら。波門のぞむ不ぞと刀とましてお用。二人の劍術はきるひ。一果
一往一去一回。用已に五十余合あ及べもいまぐ。務負ひらるとせ。悔まに
猛烈さる。かららる前をどう。波門が乃とあやぎと氣をあせり
つもむさく後にあき居ら。雲平の身材六尺に過て相貌兇
惡なり。波門は今年十九才の風流士なり。立ちあらびて武隈の松木本

あつの本頼ありとくも弱能強と制するの理もて雲平が強力も久
 りて波門が早業に勝たずぞとるるがく雲平勢ひにつきてうつ
 太刀と波門を辺みうけ流せば雲平が力にありて石の水盤に斬つ
 くるに石火をうと花散て水盤の角とまらうり。水さく流れて燃
 のりる焼火とけし忽に暗夜なる。兩人の只刀の光りとと見えつ。
 いづくに空と斬。波門を暗中からとがめとあやふむ。かうと波門
 が刃に何やまらあんとせられ。三人は必死をもち抜去し。声と忍息を
 吞かこれあられこれかくれ。暗の中をうご人なきが如し。波門は中
 一計とまど。刃と松の本を後みよせ。一声叫れが雲平と声とんめて
 ちづつあか。波門をく一刀とあげ。骨も斬るとおられ。雲平肩突
 より膳とうけて両段にうられ。地上に撲地とあれり。さらよき光景

あり。け時一由雲とれて。皎月あてびかちきりられ。波のうらと敵の
 よろこぶり限あり。海波のいも。前など雲平語て石盤を斬り
 し。我家の宝刀交剛大功鉾に疑かし。雲平が刀と把。月の光りた
 よりくえれ。果して彼剣をれ。頼みさげて怪おし。修行の宿雁
 嘹唳とまて空をよぶ。波のあかだえて。あかうれし。昔漢の蘇武匈奴
 に使し。十九年困し。舊跡は彼男麻山ありとす。あまた雁の書と以
 て言々に飯ることを得たり。我も又男麻山の危急とのがれ。さうとびも
 ま婦一両ふありて。仇を報古々。飯ること。我は。蘇武。よま
 される。高運あり。汝雁ふ。我より。蘇。士。平。を。古。々。め。ま
 と。む。ら。ら。ら。て。只。よ。ろ。こ。び。に。と。ら。り。り。拵。を。年。彼。名。剣。を。奪
 し。原。金。に。久。ん。為。あ。り。母。に。ま。し。る。劍。を。れ。出。所。を。あ。や。が。て



保成即



山玉

買人ありしうち弁太九郎小平次が冤魂の爲に死しこれに己も
 又も妖祟あらんことをかかれ幸彼劍妖魔と避る奇特ありて表
 装として若料ら。身をさるるあさど帯居るをかくて彼の彼名
 劍を以て雲平が頭と削彼う衣服の袖とむさちぎつてこれと包
 由刻沙仏をせし拜ねらるるを柱むる人あめをさうして走去ぬ
 又彼翻沖が悪由世附あつて罪せられとあん。爰に又小躰小平次
 が冤鬼安積沼をさまりて人民とあやまらるるが二年不執禪尼松崎
 遊覽のうらさ彼沼みらる。教解をせしあふれらる。小平次が靈仏果
 と得て再妖祟あつてその彼沼今いづらにわらうるのこ残りて余地昏
 新田とあつら。比辺に小平次新田しつたの残りし世々もぞ又小平次
 う子小太島い成人のむら能優の業に達しお譚の名人とあり

なるが父小平次が悪由世の所あつてそのあつてはく仏道と信し。身は能
 優あつて心は出家の如く朝夕数珠とてあつて念仏をさる
 くらじられし時の人彼が譚と坊主小岳衛とて。晩年につら不然尼
 の弟子とあつてついに出家とせられし時の人又小岳坊主といひ其
 此標本其角が口とさるる句あり

坊主小岳小岳坊主と復花

比句五元集にええら。又小岳波の雲平が首級とてさるて
 房列にいら。父の墓にさるて靈とありとせられ後船とてあつ
 らし。もに大坂に志岸。大和ふらりれ。穂積丈婦の白承の
 人の再素。一とらとあ。吉日と以て婚儀とあ。穂積波の
 と名告む。西人父母に仕て者とせ。主婦の情益厚くついにこ

男二女と生れれば。その名の男子に安西の姓と名告せて。実父の家を
記し。夫婦ともに長壽をあり。子孫繁茂して富貴榮らるるかん。
都是波のが孝義の令と皇天に通ト。ころがゆゑあつて。原甚
川が絶画赤繩と惹にりりてけ良縁あり。真是一場の奇遇あら
むや

安積沼卷之五畢 大尾

醒世老人山東先生著作

忠臣水滸傳

同著作

骨董集

初編二冊追加一冊合本三冊近刻

は書ハ二百年以後。聞人の傳。并に肖像。珍書。奇画。古制衣の衣服。
雜器の類。花街。雜劇の古風等。諸家の秘篋に索。數十部の
珍書を引。自の考をも加へて。事と記。物と圖。一る漫録。尚古乃
書也

前編五冊。後編五冊。前年發行
假名手本の洋留璃と水滸傳にあら
る。繪入の讀本あり

朱子讀書丸

清人覺世道人傳方。椿壽齋并田信明製。一包壹匁五分

○氣血とけしおのわえとよと。心腎のまきまんに。○まのくごうく。わんひんり
○これつとて。とと人用し。○あみ幸勞わく。もろ人老若男女に。かき。を。め。れ。み。え。て
ま。あ。り。○ろ。中。と。ろ。か。又。秘。傳。の。人。ハ。つ。に。く。く。人。あ。べ。○ま。ろ。う。所。の。碎。ま。や。く。つ。人。腹。痛
の。ま。い。ハ。一。粒。み。て。奇。特。あり

小兒無病丸

○小兒みえむのまの。一。粒。の。茶。わ。を。ろ
ま。に。用。ひ。か。け。か。ろ。く。も。大。妙。茶。あり

○包。二。文
○包。五。文
賣弘所江戸京橋
山東京傳烟草店

山東先生。岳瀨氏。本姓拜田。名田藏。字伯慶。一
 號醒世老人。舍東都洛橋南朱提街。恒著穉說
 以寓諷諧。舉人呼京傳子。邨孩巷。嬾靡弗口之
 而若其名氏。間亦有弗諳者。因詳標榜。編尾云
 東都書舖 僊鶴堂小林近房謹誌

享和三年癸亥冬十一月發兌

江戸通油町

書林

鶴屋喜右衛門繡梓

人日



